

令和3年2月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 令和 3年 3月10日(水) 開会 午前10時 2分
閉会 午前11時17分

場所 第1委員会室

出席委員 小川真一郎委員長
宇田川幸夫副委員長
山口京子委員、浅井明委員、中野英幸委員、諸井真英委員、小谷野五雄委員、
岡村ゆり子委員、八子朋弘委員、町田皇介委員、石渡豊委員、前原かづえ委員、
浅野目義英委員

欠席委員 なし

説明者 [教育局]
高田直芳教育長、萩原由浩副教育長、
佐藤裕之教育総務部長、日吉亨県立学校部長、関口睦市町村支援部長、
青木孝夫県立学校部副部長、古垣玲市町村支援部副部長、
加藤健次教育政策課長、島村克己財務課長、
小出和重高校教育指導課長、竹井彰彦特別支援教育課長、
八田聡史義務教育指導課長、横松伸二参事兼生涯学習推進課長、
案浦久仁子文化資源課長
[県民生活部]
穴戸佳子県民生活部副部長、浅見健二郎文化振興課長
[福祉部]
清水順平障害者福祉推進課主幹

会議に付した事件
文化の振興について

山口委員

文化芸術はほとんど発表の場がなくなっており、規模縮小や中止ばかりである。伝統文化である小鹿野歌舞伎などもほとんど中止だったのか。

文化振興課長

各地域の伝統芸能については、話を聞く限りでは、小鹿野歌舞伎はここ1年活動を休止している。ほかにも多くの伝統芸能で、そもそも人と人が会って稽古をすること自体が危険だということで活動できないことが多かったと聞いている。

山口委員

伝統文化の中で、1年間、人と人が会って稽古できないということなので、担い手の育成が問題になってくる。文化行事も途切れることになるかもしれない。途切れてしまわないための方策や状況把握をしているか。

文化振興課長

コロナにより活動できないということは良い状況ではない。資料の戦略5の中で、「埼玉WABI SABI大祭典」という和文化の総合イベントを開催している。今年度はコロナ禍を受けてオンラインで開催した。各地域の団体に可能な限り声掛けし、この出演のために少人数で稽古してもらい、事前収録で出演していただいた。できる限り伝統芸能の活動を止めないように取り組んだ。ある秩父の団体では、恒例の奉納する祭りすらなく何もできなかったが、「埼玉WABI SABI大祭典」に参加したことで活動を止めずに済んだとの話もあった。

岡村委員

- 1 次世代未来サポートは、講座に対して上限200,000円を助成するのか、それとも講座を行う団体に助成するのか。
- 2 「#おうちでミュージアム」について、コロナ禍なので動画を配信したということだが、どのくらいのアクセスがあったのか。
- 3 ミート・ザ・ミュージック、ミート・ザ・ダンスについて、全県の小中学校を網羅するには、5校、3校では少ない。広げていけばより多くの子供たちのためになり未来につながっていくと思う。コロナ禍のためにこのような数になっているのか。それとも例年このような数なのか。
- 4 ミート・ザ・ダンスは中学校だけということだが、小学校でもダンスを習っている子供は多い。中学校ではダンスが必修なので後にもつながっていき、また、習うことのできない家庭環境の子供もいると思う。そのような子供たちにも夢と希望を与えられるように小学校でもできたらよいと考えるがどうか。また、中学校だけにしている理由は何か。

文化振興課長

- 1 次世代未来サポートについては、人材育成の講座や人材育成のための取組を実施する団体に対して助成するものである。
- 3 ミート・ザ・ミュージック、ミート・ザ・ダンスのどちらも、市町村教育委員会を通

じ各小中学校から手を挙げてもらい実施校を決定している。ダンスは、年間の申込みが、5、6校であり、全て派遣できている。ミュージックは、年によるが20校程度の申込みがあり、派遣できているのが5から7校というのが実態である。プロの音楽家やプロのダンサーを派遣するので、まずはプロの方のスケジュールを確保していく必要がある。また、芸術文化振興財団職員のスケジュールも合わせながらという形になる。ミュージックについては要望がかなえ切れていないので、どう広げていくか財団とともに検討したい。

- 4 ダンスを小学校で実施することについては、仮に小学校から要望があり、スケジュール調整ができれば検討できると考えている。

文化資源課長

- 2 各博物館・美術館では、令和2年3月に臨時休館に入った後、SNSを活用した情報発信の準備をした。3月から5月の間に7館で、博物館の様子や展覧会などの様々な映像を発信した。アクセス件数は、3月から5月に公開した映像で約39,000件となっている。

岡村委員

- 1 7館合わせて30,000件超ということで、結構アクセスしてもらっていると理解している。コロナ禍だから実施したということもあるが、アフターコロナということもあるので、今後もSNS等での情報発信や動画の発信は有効だと考えるが、続けていく方向なのか。また、動画を見ることで実際に足を運ばなくてもよいと思ってしまう方々もいると思うが、対策を考えているか。
- 2 ミート・ザ・ダンスについて、小学校から要望があればということだが、小学校でもできるという可能性があることを現場は知らないと思う。待つだけでなく、プロのスケジュールを確保できるような状況が整ったら、小学校でもアプローチをしていただければありがたいが、その点はどうか。

文化資源課長

- 1 実のところ、新型コロナウイルス感染拡大の前は、博物館・美術館はSNSを使った情報発信が決して得意ではなかった。ただし、実際にお越しただけになったときに、我々としてどういった方法で県の文化財や文化の魅力を知っていただくのかと考えたところ、やはりSNSやインターネットを使った情報発信がこのような状況の中では効果的であると判断して始めたところである。一度学んでしまうと意外と簡単にできるということもあり、各館ではノウハウも獲得できたので、今後もこういった効果的な発信を続けていきたいと考えている。また、インターネットで満足してしまってお越しただけなのであれば、大変残念なことである。映像を見ていただくことが、お越しただけことの入り口となるように映像を作る点で工夫していく。

文化振興課長

- 2 プロのダンサーのスケジュールが確保できるかという点が大きな要因になる。実際に派遣を行っている芸術文化振興財団と調整した上で可能であれば、教育委員会を通じて小学校の意向を確認するような方法ができるか検討していく。

八子委員

戦略5の「埼玉WABI SABI大祭典」の高校生「和」文化動画は、毎年このようなメニューがあるのかどうか。また、動画本数が21団体だがどんな団体か。

文化振興課長

「埼玉WABI SABI大祭典」の中で、「和」文化動画は今までなかった。これまで大宮公園に会場を設け多くの人を集めて開催してきた。動画配信というのは今回が初めてである。せっかく動画でやるのであれば、高校生の文化活動ができなくなっているという状況もあり活動動画の募集をした。今後は人を集めて開催する場合でも、配信というやり方も併用していきたいと考えているので、高校の文化部活動の動画を募ったり、高校生に出演してもらったりするという形はこれからも取っていききたいと考えている。高校生の動画は、例えば、書道部や応援団のパフォーマンスなど様々な文化活動の動画がある。

八子委員

正に私の後輩も応援団で応募させてもらった。今年はコロナで応援活動、演技披露も全くなかった。そのような中でこのような企画があり後輩たちも喜んでいる。高校の応援団は、今年一年で廃部寸前にまで追い込まれている。この春の新入生加入の勧誘に失敗すると、多くの学校の応援団部が廃部になりかねない。発表の場を作ってもらってありがたい。答弁では来年度以降も予定しているとのことだが、応援部に限らず存続の危機にひんしている和文化の部活動は、新入生の獲得に苦労している。このような部には発表の場が必要である。引き続きこうした場を設けてほしい。コロナが今後どのような状況になっても継続してほしいと思うがどうか。

文化振興課長

令和3年度も「埼玉WABI SABI大祭典」を開催するため当初予算案に盛り込んでいる。御議決いただければ、秋には多くの方に来ていただいて開催したいと考えている。そこで和文化活動の高校生にもお声掛けしたいと考えている。その先はこれからの検討であるが、「埼玉WABI SABI大祭典」で培ったものを生かしながら何らかの形で後継事業につないでいくために検討していきたいと考えている。

浅井委員

- 1 伝統芸能サポートについて、現在どれくらいの団体がサポートを受けているのか。また、例えば、お囃子、神楽、獅子舞、和太鼓など伝統芸能の種類について教えてほしい。
- 2 学校へ指導に行っている団体もサポートの対象となるのか。
- 3 無形民俗文化財に指定されていない団体でもサポートの対象になるのか。

文化振興課長

- 1 神楽など様々な無形民俗文化財に指定されているものが対象である。指定無形民俗文化財の保存団体が令和元年度末に約390件あり、これらが助成の対象になって、年間20件程度助成している。
- 2 学校へ指導に行っている団体については、伝統芸能サポートの要件が、伝統芸能の継承に必要な文化財の用具、例えば、獅子舞の獅子頭が壊れてしまったから直したいといったことが一つある。もう一つはその伝統芸能を後世に継承するような取組である。具体的に内容を伺わないと一概には言えないが、学校に指導に行くことが後継者の育成に

つながるといふことであれば、対象になる可能性はある。伝統芸能サポート以外にも活動成果サポートや次世代未来サポートがある。次世代未来サポートは伝統芸能に限らず、様々な文化を次世代に引き継ぐための育成活動をサポートしているので、個別の案件について、具体的に内容を聞かなければ分からないが、対象になる可能性はあると考える。

- 3 指定無形民俗文化財の保存団体は389団体ある。平成24年度からこの伝統芸能サポート事業を始めて令和元年度までに84団体に助成した。まだ全体に行き渡ってない状態である。また、指定無形民俗文化財という枠を外すとどこまでを対象とするのかということが問題になり、その議論も必要である。対象団体のうちまだ助成できていない団体もあるので、当面はこの要件のまま続けたいと考えているが、広げた方がいいのかということも含めて今後の課題とさせていただく。

浅井委員

- 1 文化財の保存と伝承が一番難しいところである。特に、有形と無形とに分けた場合、無形の方がとても大変である。越谷市指定無形民俗文化財第1号の「越谷の木遣」もなかなか認めてもらえないということもあった。伝統の大切さをしっかり受け止めてくれる、後継者育成が大事だと思う。後継者育成には、指導者から率直な考えや意見、課題、問題を県が聞くことが大事だと思うがどうか。
- 2 文化財指定の申請手続きが結構大変である。その点についても、県がサポートすることはできないか。

文化振興課長

- 1 伝統芸能を継承していくために指導者が必要というのは全くそのとおりだと考える。何年か前に伝統芸能保存継承団体に対して調査を行い、今必要な支援は何かと聞いたところ、最も意見が多かったのが修繕などに必要な金銭的な支援、次に後継者育成支援ということだったのでこのメニューにあるとおりにやらせていただいている。これからも機会を捉えて意見を伺っていく。

文化資源課長

- 2 国の文化財指定については、文化庁が調査を行って決める形になっており、自ら指定してほしいということで申請するものではない。文化庁が学術的、歴史的な観点からその文化財が指定になり得るものなのか、しっかり調査をして指定されるという点を御理解いただきたい。また、指定になるようサポートしてほしい、練習に使う用具が古くなったのでサポートしてほしい、あるいは文化財の専門的な知見がないのでサポートしてほしいといった話は数多く頂戴している。県にも民俗専門の学芸員がいるので、出向いで地域の方々と話をさせていただくことはその都度している。

浅井委員

文化財には国、県、市指定があつて、市指定については文化財保護審議会が指定するに値するかどうか何回も議論を重ねて結論を出すと思うが、それに準ずる団体、例えば、自治体主催の郷土芸能保存協会に参加しているような団体も、指定を受けたいのだがよく分からないといった場合に、県がサポートしてもらえるのか。

文化資源課長

県指定についても同様のシステムを持っており、文化財保護審議会ですべて学術的に文化財の

価値を調査して指定するかどうか決めるという手続になっている。その中で、地域の文化財が指定に値する価値があるということであれば、県がしっかり調査していくので、市町村教育委員会あるいは地域の方を通して御相談いただければと考える。

浅井委員

伝統文化、芸能、芸術は一度消えたら復活が難しい。日本中、それがいっぱいある。文化庁主催の全国指導者研修会に30数年前に参加して事例報告を聞いた。無くなってしまった団体や、逆に60年ぶりに復活したという事例報告を聞いている。そうならないために、やる気のある団体に対して、という思いを含めて聞いた。しっかりと取り組んでいただきたい。(要望)

前原委員

4ページの「3 文化芸術に触れる授業等の取組」のところで、「芸術の授業や総合的な探究の時間などにおいて文化芸術の鑑賞や、創造的な活動等を実施」と2行だけで書かれているが、中身について報告いただきたい。具体的には学校での芸術鑑賞教室が行われているはずだが、学習時間の確保という観点から例年減少傾向にあると聞いているので、コロナ禍での状況をお答えいただきたい。

高校教育指導課長

コロナ禍における芸術鑑賞会の状況についてであるが、例年行っている芸術鑑賞会は、コロナの影響で実施できるところが少なくなり、令和2年度で139校中28校で芸術鑑賞会を実施している。内訳は演劇が5校、音楽が9校、古典芸能が9校、そのほか5校となっている。

中野委員

- 1 伝統芸能サポートについて上限が200,000円となっているが、この限度額で本当に伝統芸能の衣装やお面の購入など賄えているのか。
- 2 この助成制度は、経年で利用できるのか。
- 3 後継者育成という名目について、会の運営についても助成できるのか。
- 4 蜷川レガシーの継承と新たな展開について、そもそもこれは蜷川幸雄氏を中心に多くの県民を集めて行われた事業だが、蜷川氏が逝去され時間が経過していることやコロナが発生した今、蜷川氏をこのまま引っ張っていけるのか。また、次の演出家等を通じ、埼玉初の新しい企画の考えがあるか。

文化振興課長

- 1 例えば、修繕であれば、補助だけで全てを賄うのは難しいと思われる。自己資金を出していただきながら200,000円も有効に活用して、これまでに多くの団体が大いに役立てていただいている。
- 2 この事業は1団体で5回までは利用できる。今年度はここまで、来年度はまた違うことという形で利用できる。
- 3 この助成事業は、団体の運営を補助するものではなく、後継者育成や修繕に係る事業の実施を補助するものである。
- 4 蜷川氏が芸術劇場に残されたものとして、シェイクスピア・シリーズ、ゴールド・シアター、ネクスト・シアターといったものが今でも高い評価を受けており、芸術劇場を

高く評価していただく非常に貴重なレガシーと考えている。シェイクスピア・シリーズも37作品を全て公演するという形で続けており、ネクストやゴールドについても年1回程度開催させていただいている。このたび、蜷川氏が逝去され空席になっていた芸術監督に近藤良平氏が4月から次期芸術監督という位置付けで決まった。近藤氏が芸術監督を引き受けるに当たり、蜷川氏の貴重なレガシーは自分なりの展開を加えながら引き継いでいきたいとおっしゃっているので、新しい展開が加わると思うが、全くゼロになるということはないと考えている。

中野委員

蜷川レガシーについて、7,400万円の補助だが、収益が上がっているのならこの額の補助は不要ではないか。

文化振興課長

例年であれば、シェイクスピア・シリーズは劇場にとって収益が高く、20公演ほどで1億4,000万円程度の収益になるので、補助金も充てて様々な経費が賄える。今年中止になり、実施できたものはネクスト・シアターの公演一つだけだったため、収支は赤字となる。実施しているものはこれだけではないので、例年の収支は貸館も含め若干の黒字であるが、今年貸館も含め使用率も非常に低く、恐らく年度末では赤字になると思われる。そのような中でも、作品の発表を諦めず実施しているというのが実態である。

諸井委員

- 1 蜷川レガシーを生かしつつも、新たな展開を同時に考え出すことも必要かと思うが、考えを伺う。
- 2 戦略2の「埼玉らしさの発見と世界への情報発信」の「埼玉らしさ」というイメージが難しい。どのようなものか。
- 3 「世界への情報発信」について、どこでどういう情報発信をしているのか。

文化振興課長

- 1 4月から近藤良平氏が次期芸術監督として入るので、これから1年間をかけ、新しい芸術劇場の在り方を検討していく。近藤氏は、蜷川レガシーは自分なりの展開を図りながらも継承したいとおっしゃっている。それ以外でもオリジナルな考えの中で新しい展開がされていくものと考えており、それを芸術文化振興財団と協議しながら支えていきたい。
- 2 「埼玉らしさ」の考えについては、人によっていろいろと違うと思う。人によっては川越祭りや秩父夜祭り、小鹿野歌舞伎、あるいは芸術劇場で行われている質の高い舞台などいろいろな考えがある。我々が考えている「埼玉らしさ」は、そういったものを含めて古くから根付いた伝統文化、しかも、そこに新しい舞台や芸術が生まれているというのが「埼玉らしさ」と考える。そういった意味でこの資料は最先端の舞台芸術を掲載している。
- 3 世界の発信については、一つは蜷川さんが高いレベルまで高めてくれた芸術劇場の作品だと考えている。蜷川さんが亡くなられて数年が経ち、久しく海外での上演が行われていないが、ゴールド・シアターはフランスで公演が行われたり、世界で有名なダンサーを呼んで芸術劇場を中心に発信を行っている。我々が行っている伝統文化のイベントやコンサートなどにおいても、英文での解説を付けたり、外国人の来場者に母国語に

よりSNSで発信してもらっている。

諸井委員

世界への情報発信について、蜷川さんの質の高い作品を上演するという発信だけでなく、埼玉ならではの小鹿野歌舞伎や祭りもある。それらも英語やいろいろな言語の字幕を付けた動画を発信することや、埼玉県に関係する人気のユーチューバーに発信してもらうなど、この先なくなってしまう危惧のある団体にお金が集まるようにすれば、団体の存続にプラスになる。ネットでの世界への発信の仕方を工夫すべきと考えるがどうか。

文化振興課長

ウェブを使ってユーチューブなどで動画を配信するのは大変有効な方法である。現在でも「埼玉WABI SABI大祭典」に出演した皆様の個別のプログラムの動画を公開している。また、過去に行われた伝統芸能の動画も公開している。委員から多言語化についての指摘をいただいたので今後検討させていただく。